

2008年度京都南部地区西ブロック短期計画の評価

2009年 3月 15日

ブロック担当司祭団・西ブロック役員

1、 司祭・奉獻生活者・信徒相互がお互いの賜物の違いを認め合って、福音宣教の動機を高める交わりの共同体になっていくこと。

① ミサを中心とした典礼と日常の信仰生活が遊離しない共同体づくり。

- ・ ミサの典礼奉仕をはじめとして、教会共同体を支えることに対して積極的な参画意識が高まり、従来の受動的なスタンスから能動的に変化高揚してきている。
- ・ 一人ひとりの賜物の違いをありのまま受け容れながらも、教会共同体の目指すべきことをお互いに学び合う意識が日々の分かち合いによる相互交流で明確になってきていると感じる。

② 奉仕職の充実と継続的な養成を行う共同体。

- ・ 同じ人がずっと同じ役割を担うのではなく、できるだけ新しい方が担っていけるように努力してきている。それは、多くの信徒が様々な代表者を経験し、共同体を信徒全体で守っていけるように代表者の役割を担える人の裾野が広がることである。ただ、まだまだ、役割に対する負担感が拭えない方が多いことは否めない。

2、 宣教するために自分自身が進んで自己奉獻していくことを学ぶ共同体。

① 信徒が自立した信仰者として安心して自分自身を表すことが出来る共同体。

- ・ 集会祭儀では、勧めの言葉など、内容が充実してきている。他小教区とのローテーションでの集会司式者の相互訪問で、他教会からの影響や刺激を受けている。分かち合いでは、信者が安心感をもって、自分自身の意見や考え方を、発言しているように思われる。慣れてきた事も大きいと思われる。
- ・ 課題としては病床訪問の学習会、信徒が協力して行う勉強会の開催など。

② ブロックの行事は地域的なねらいをはっきりさせた上で行い、実行後はお互いに識別する共同体。

- ・ 司教訪問や桂教会50周年行事ではブロック内で連携を取り準備できた。
- ・ 教育部でも互いの親睦をねらったブロック活動を小規模であるが、おこなうことが出来た。
- ・ 昨年度は中止になったウォーカソン等の行事が、どのように地域性や独自性が発揮でき、意義を見い出すことが出来るかである。

③ 共同宣教司牧の小教区モデルを提示出来るような養成やプランニングを行う。

- ・ 司教訪問の分かち合いで「共同宣教司牧10年をふり返って」というテーマで話し合ったり、様々なふり返りを行い、共同宣教司牧の問題点や課題を探った。
- ・ 養成についてはブロック集会司式者学習会や分かち合いの司式者の研修会、教理担当協力者の任命など進んでいると思われる。
- ・ 集会司式者・聖体奉仕者になるにはそれなりの覚悟が必要であるが、二の足を踏まず奉仕することの喜びを持ってほしい。
- ・ 子どもの信仰教育や、子どもの典礼奉仕（待者）の養成が急務である。
- ・ 3年、5年、10年先を臨む中長期計画を小教区毎に思い切って立てて、人材の育成・養成を基本に「行程表」を描くことも有効と思われる。